

臨床研究・調査の概要

| | |
|--------------|--|
| 研究課題名 | 大腿骨近位部骨折患者における多剤併用の現状と、老年内科専門医の介入による薬剤削減効果に関する後方視的研究 |
| 研究の概要 | <p>【研究の目的・意義】</p> <p>骨脆弱性による大腿骨近位部骨折患者の患者は、その多くが高齢者であり、入院の時点で不適切な多剤併用、いわゆるポリファーマシーの状態となっていることも多い。一方、多剤併用が進むと転倒が増加することが報告されており、二次骨折予防や医療安全の観点からも処方適正化が望まれる。当院整形外科では大腿骨近位部骨折患者に対する老年内科（高齢診療科）専門医との協働診療を行っており、整形外科主治医、病棟担当薬剤師と協働で処方の適正化に取り組んでいる。老年内科専門医介入前後での入院時・退院時それぞれの投薬状況に関して、後方視的なカルテ調査を行うことで、老年内科専門医の介入による処方適正化、薬剤削減の効果を明らかにする。大腿骨近位部骨折患者に対する、整形外科医、老年内科専門医、薬剤師による処方適正化の事例はこれまで報告が無く、国内におけるケアモデルを提示することができる。</p> <p>【研究対象者】</p> <p>2014年4月1日～2021年3月31日までの期間に、当院に入院した大腿骨近位部骨折の患者</p> <p>【研究の方法】</p> <p>2014年4月1日～2021年3月31日までの期間に、当院に入院した大腿骨近位部骨折の患者の入院時および退院時の薬剤数、薬剤の種類などについて、老年内科専門医の介入前後で比較検討を行う。</p> |
| 研究資料の入手・閲覧 | <p>研究資料については、研究対象者または当院が認める親族等の方からのご要望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障のない範囲で提供いたします。</p> <p>研究資料の入手・閲覧を希望される方は、次へご連絡ください</p> <p>富山市民病院 診療科：薬剤科</p> <p>役職：主査 氏名：萩行 正博</p> <p>TEL 076-422-1112（代表）</p> <p>FAX 076-422-1371</p> <p>e-mail jimukyoku@tch.toyama.toyama.jp</p> |
| 個人情報の開示に係る手続 | 富山市個人情報保護条例に規定する手続きに従い、適切に対応いたします。 |
| 相談等への対応 | 研究対象者からの除外を希望される場合、その他当該研究に関する相談等については、関係資料の入手・閲覧と同じ連絡先にご連絡ください。 |